

「今年の漢字」

毎年この時期に今年一年の世相を表す漢字一文字を全国から募集し、京都・清水寺貫主が発表している。2020年「今年の漢字」第1位は『密』であった。

今年の流行語年間大賞が『三密』であったので、予想は容易かった。コロナ禍で暮らしが大きく変わり、国民にこの言葉が強く印象付けられたことは間違いないし、『禍』『病』などがトップ3に入ったのも当然かもしれない。流行語大賞候補の『鬼滅の刃』に押されて『鬼』『滅』もあり得るのかなと思ったりもしたが、トップ10に入ったに留まった。

コロナ対応で批判を受け続けている菅首相は、「国民のために働く内閣と銘打っているのに、『働』と言う字だ」と述べた。密を避けて4人以内で食事をと呼び掛けているその人が、高級レストランで著名人を含む8人で忘年会を開いたとは、何ともお粗末である。『働』はどの方向を向いているのかはなはなだ疑問だ。驚くべきは、良識あるべき大人が8人もいながら、誰一人も会の中止を言いださなかったことに尽きる。

アンジャッシュ児島は『半』を選んだ。本人が「半沢直樹」の番組に出ていたのと、相方の渡部問題でコンビが半分になったかららしい。河野行革相は『砕』、浅田真央は『進』を選んでいる。皆、それぞれの想いがあるのだろう。

豊翔高等学院の今年の漢字は、私は良い意味での『密』としたい。どちらかと言えばコミュニティが苦手な生徒が、教室の密の状況の中で話し合ったりゲームをしたりしながら、友達と時間と空間を共有し、小さな喜びや楽しさを自分のものとして実感できる日々を過ごしてくれていた。「密に繋がる」という想いをこめたい。

私はゲームに参加したりしての生徒との接触は、小林先生達4名の職員に比べれば本当に少ない。70歳前の年齢がハードルかも知れない。ただ、生徒の様子には目を配るようにしている。それは、彼等彼女等の「笑顔」を探しているからだ。彼らがコミュニティの世界で周りの生徒とうまく関わっているか、またその関りを肯定的に受け止めているかのバロメーターは「笑顔」だと思っている。そして、その笑顔に確かに癒されている。

そういう意味で言えば、私個人の今年の漢字は『笑』と決めたい。

今年ももうすぐ一年が終わる。新型コロナ収束を願い、「猫はこたつで丸くなる♪」みたいな、どこにも出かけない正月になりそうだ。

(丹羽 豊)